
2022年3月2日（水）発行

メルマガ～開示会計を学ぶ～ Vol. 84

株式会社スリー・シー・コンサルティング

- 1 会計ニュースダイジェスト（2022年2月）
- 2 会計基準の公表予定等
- 3 ワンポイント開示会計問題演習
「ストック・オプション等及び税効果会計関係2」
- 4 児玉厚の開示川柳「減損や キャッシュ・フロー予測 正しいの？」
- 5 編集後記

本メルマガにおける意見にわたる発言は、各著者の個人的見解です。

1 会計ニュースダイジェスト（2022年2月）

- 1) 金融庁、記述情報の開示の好事例集 2021 を更新（2月4日）

<https://www.fsa.go.jp/news/r3/singi/20220204.html>

- 2) 会計士協会、KAMに関するXBRLタグ付けについてお知らせ（2月4日）

https://jicpa.or.jp/specialized_field/20220204ift.html

*本号をもって「会計ニュースダイジェスト」を終了いたします。
なお、会計ニュースは今後も随時配信いたします。

2 会計基準の公表予定等

・先月公表された基準等については上記「会計ニュースダイジェスト」をご覧ください。（【 】は「会計ニュースダイジェスト」の番号）

- 1) IFRS（2022年9月までの公表予定）
（無印：確定 ED：公開草案 DP：ディスカッションペーパー
RI：情報要請 FS：フィードバック文書 PS：プロジェクト概要）

(1) リサーチプロジェクト

- ・資産収益に依存する年金給付：PS 2022年4月
- ・IFRS10、11、12号の適用後レビュー：FS 2022年4～6月
- ・第3次アジェンダ協議：FS 2022年7～9月

- ・ワークプラン

<https://www.ifrs.org/projects/work-plan/>

- ・IASB Update

<https://www.ifrs.org/news-and-events/updates/iasb/>

2) 日本基準

(1) 金利指標改革に起因する会計上の問題：2022年3月予定

- ・現在開発中の会計基準に関する今後の計画（更新：2022年2月1日）

<https://www.asb.or.jp/jp/project/plan.html>

* 本号をもって「会計基準の公表予定等」を終了いたします。
長い間ご愛読ありがとうございました。

3 ワンポイント開示会計問題演習

* メルマガ読者にのみ公開しています。

4 児玉厚の開示川柳

* 児玉厚（株式会社スリー・シー・コンサルティング 代表取締役）による
「開示川柳」をお届けしております。

「 減損や キャッシュ・フロー予測 正しいの? 」

3月決算がもうじき始まる。

M&Aが増加すると共に、監査報告書のKAM(監査上の主要な検討事項)に
「のれんの減損」が多く開示されている。

のれんの減損は投資の失敗を意味する。
社長の嫌いな言葉だ。

経理の方は、「減損したくない」社長と

「減損すべき」と主張する監査法人の間で難しい調整に迫られる。

M&A する際の価値計算は誰も厳格にチェックしていないと言われている。

素朴な疑問として下記の点がある。

- Q1. 何故、M&A 手続の内部統制監査を実施しないのか？
- Q2. 何故、事業計画の策定プロセスの内部統制統制監査を実施しないのか？
- Q3. 将来フリー・キャッシュフローを（営業利益+減価償却費）
×（1-法定実効税率）で簡易計算していると思うが、
この簡易 FCF 計画・・・(1) と
実際のキャッシュ・フロー計算書の FCF・・・(2) との
差異分析が実施され、監査上チェックしているのか？
- Q4. 減損が発生しない様に、月次で上記（1）と（2）の差異分析し、
改善する手続が実施され、そのプロセスを監査でチェックしているのか？
- Q5. 有価証券報告書の監査報告書の KAM(監査上の主要な検討事項)で
のれんの減損について開示されるケースが増えている。

投資家から下記の質問を受けた場合、どの様に回答するのか？

投資家

「KAM として、割引前将来キャッシュフローの金額が簿価を上回ったため
減損は行わなかった」と記述されているが次の点について回答して下さい。

1. 割引前将来キャッシュフローと簿価はそれぞれいくらだったのですか？
 2. 割引前将来キャッシュフローは具体的にどの様に計算しているのですか？
 3. 上記 2 の割引前キャッシュフロー計画と実績のキャッシュ・フロー計算書の
フリーキャッシュフローの当期のそれぞれの金額と差異と差異理由を
具体的に説明して下さい。
- Q6. ESG 投資の一環として M&A が増えると思うが、短期的なシナジー効果や
投資回収はないと考える。
この様な場合ののれんは減損になるのでしょうか？
ESG 投資にブレーキがかかる要因にもなると考えますが。
- Q7. 投資者保護の観点からすると、M&A 実施の適時開示の中で
キャッシュ・フロー計画を示し、どの様に企業価値計算を行い、
その結果のれんが発生している旨を合理的に適時開示すべきなのでは
ないのでしょうか？

皆さんはどの様に考えますか？

* 本号をもって「児玉厚の開示川柳」を終了いたします。
長い間ご愛読ありがとうございました。

5 編集後記

* メルマガ読者にのみ公開しています。

発行：株式会社スリー・シー・コンサルティング
〒171-0033 東京都豊島区高田 3-14-29 KDX 高田馬場ビル7階
URL : <https://www.3cc.co.jp/>

Copyright (c) Three C Consulting Co.,Ltd. All Rights Reserved.